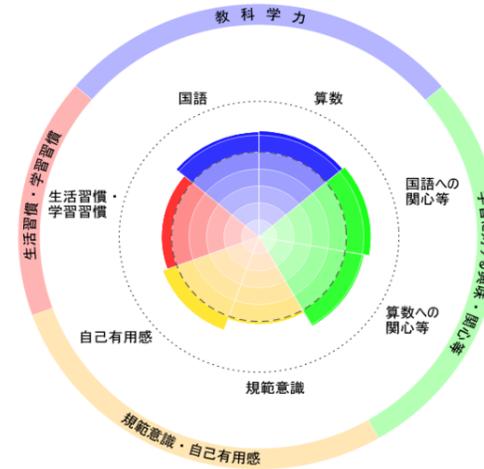


(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策
国語	○全ての領域において、正答率が全国・県平均より上回っており、力がついている。特に、「話すこと・聞くこと」の領域での正答率がかなり高い。 ○無回答が少なく、長文を読み取り、最後まで書こうとする意欲がある。 ●同音異義語の漢字の書き取りの正答率が、県平均よりは高いが、全国平均に比べて低い。 ●正答率の分布に二極化の傾向が見られる。	・毎月行っているチャレンジテスト(漢字の書き取り)を、今後も全学年で継続して行い、基礎的な力の定着を図る。また、短作文作りや熟語集め等により、漢字の意味理解をさせていく。 ・読書の推進、図書館活用学習、作文指導等を通し、長文を読み書きする学習を積み重ねる。
算数	○全ての領域において、正答率が全国・県平均より上回っており、力がついている。特に、「数量や図形についての技能」の観点における正答率がかなり高い。 ○無回答がほとんどなく、最後まで粘り強く問題を解こうとする意欲がある。 ●式が表す意味の理解にやや弱みが見られる。	・毎月行っているチャレンジテスト(計算)を、今後も全学年で継続して行い、基礎的な力の定着を図る。また、単元ごとにドリル学習やプリント学習を繰り返し行う。 ・習熟度に応じて、活用的な問題にもチャレンジする機会を作る。 ・課題解決の過程で、図や表と結びつけながら考えさせたり、多様な考えを引き出したりしながら、意味理解を図る。

(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



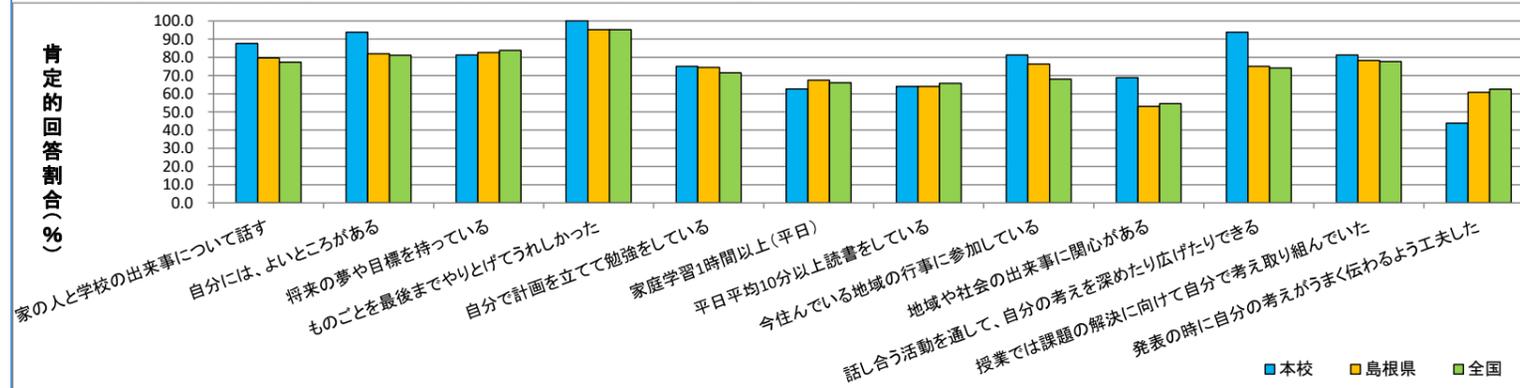
(2)生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策
	○自尊心が高い。また、物事をやり遂げて良かったという経験を100%の児童がもっていることが、最後まで問題に向かおうとする意欲につながっていると思われる。 ○家庭、地域、学校等、周囲の人々との関わりが深い。 ●家庭学習や宿題に全員取り組んでいるが、時間的にはやや少ない。 ●話し合う良さは感じているが、話し方を工夫したり広げたりする力に課題がある。	・自主学習や宿題についての指導を継続し、量や質の向上を図る。 ・相手に分かりやすい伝え方の工夫をさせたり、話を広げたりまとめたりするための司会の方法を指導したりし、話し方のスキルを身に付けさせていく。

(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・「めあて」「まとめ」「ふり返し」のある授業づくりに努めるとともに、授業や自主学習ノートを丁寧に指導することにより、子ども達に「分かる喜び」や「できる楽しさ」を感じられるようにする。  
 ・「考える道徳の授業づくり」を通して、自他の問題を学級学校全体で考えさせ、共に伸びていこうとする集団づくりをしていく。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



【参考】

○平均正答率

	本校	松江市	島根県	全国
国語	75	63	62	63.8
算数	75	66	65	66.6

受検者数 16人  
 ※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示して下さい。